

宗谷教育旅行広域受入協議会

(教育旅行)

宗谷総合振興局

【協議会の特徴・理念】

宗谷は、日本の最北端でもありブランド力があること、また、道内への教育旅行のニーズは高いことから、管内での教育旅行生の受入れを定着させ継続することで、交流人口を増加させ農村の魅力を発信し地域の活性化を図る。

【宗谷地域の概要】

① 自然環境

宗谷管内は北海道の北部に位置し、西は日本海、東はオホーツク海、北は宗谷海峡の三方が海に面しており、南は上川、オホーツク、留萌管内に隣接しています。

宗谷岬からは、サハリン（旧樺太）が眺望でき、日本海側には、利尻島・礼文島があります。総土地面積は、4,625.16km²（ほぼ京都府の面積）と全道の約5.5%を占め、東西150km、南北100kmの広がりをもっています。



② 農村ツーリズム展開方針

広大な土地を背景にした酪農や日本海とオホーツク海の海域の特性を活かした漁業を基幹産業とし、離島などの魅力ある観光資源に恵まれているという地域の特性を踏まえ、地域資源を活かした農村ツーリズムの推進により、雇用の創出や交流人口の拡大を図る。

① 地域の特色を活かした体験型・滞在型観光の推進

離島などの雄大な資源に恵まれた農・海産物を活かした食と観光の連携や体験型・滞在型観光の推進

② 教育旅行の受入継続

豊かな地域資源を活かした教育旅行の受入れを継続し、地域における将来の就労・就学等につなげるとともに、受入れを通じた地域関係者の連携や交流人口の拡大を図る。

【協議会の概要】

① 設立年

平成30年（2018年）～

② 構成・事務局

稚内市、猿払村、浜頓別町、中頓別町、枝幸町、豊富町、幌延町、JA稚内、JA東宗谷、JA中頓別町、JA宗谷南、JA北宗谷、JA幌延町、宗谷総合振興局（事務局）

③ 協議会設立の経緯（きっかけ）

宗谷管内では、平成29年12月に初めて教育旅行生の受入れが実施された。

この頃の管内の受入れは市町村単位となっていたことから、窓口の一本化と情報の共有を目的に、平成30年度末に本連絡協議会を設立し、令和元年度からは広域的に連携した受入れを開始。

④ 協議会の活動内容

- ・ 定期総会（4月・10月）
- ・ 受入れ農家の掘り起こし
- ・ 教育旅行受入準備

⑤ 現在の課題

例年、宗谷管内だけでは教育旅行生を受入れる農家戸数が足りず、上川・留萌管内に協力をお願いしているところ。

令和2年度の受入れは新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり中止した。

今後は、教育旅行生の受入れについての意識醸成を高める必要がある。

【教育旅行生の受入実績】

	市町村	H29実績		H30実績		R01実績	
		戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数
管内	稚内市 (JA稚内)	3	8	3	8	2	6
	稚内市 (JA北宗谷沼川)	4	15	2	7	2	7
	豊富町	10	29	10	34	10	33
	幌延町	2	8	2	8	2	8
	猿払村	4	16	1	4	1	4
	浜頓別町	8	28	5	16	7	25
	中頓別町	1	4	0	0	0	0
	枝幸町	0	0	0	0	0	0
	計	32	108	23	77	24	83
管外	留萌振興局 (天塩、初山別)	1	4	3	12	2	8
	上川振興局 (名寄、土別、美深)	3	12	2	8	5	18
	計	4	16	5	20	7	26
	合計	36	124	28	97	31	109

【特徴的な取組】



<令和元年度の取組>

12月、道外の普通科の高校2年生109名が道北地域に教育旅行として全行程の4泊5日うち、2泊3日を31戸の酪農家に分散して生活の体験を行った。

初日、荒天による到着飛行機の遅れはあったが、各地域で受入農家と対面式を行い、ファームステイを開始。

2日目、農家の家族の一員として、酪農作業を手伝い仕事の合間は、日常生活を学び、雪遊びや地域でのイベント等にも参加。

最終日は、早朝の酪農作業を手伝い、受入農家と別れの挨拶を交わした。生徒の中には、農家との別れを惜しみ感謝の気持ちを抑えきれず、目に涙を浮かべながら握手し抱き合う生徒もいた。短期間であっても何かを感じ取ってくれたのだと思う。

受入れする側にとっても、「宗谷の酪農」、「宗谷地域」をPRする絶好の機会であり、将来的にも北海道農業の応援団や担い手候補になってくれる期待や可能性も秘めている。

今後は、地域や受入農家さんの負担が少しでも軽減され継続的な取組となるよう、各種取組みを進めて行く。

【連絡先】

代表窓口：宗谷教育旅行広域受入連絡協議会

(事務局 宗谷総合振興局産業振興部農務課 担当 主査 (企画) TEL 0162-33-2957)